

**株式会社アドバンテスト
会社説明会**

2011年度 決算概要

2012年4月26日
常務執行役員 管理本部長 中村 弘志

2011年度 業績概要

ADVANTEST

(単位: 億円)

	2010年度	2011年度								
		1Q	2Q	3Q	4Q			通期		
					1月発表の予想	実績	前期比(%)	1月発表の予想	実績	前期比(%)
受注高	1,090	384	276	259	331	343	+32.6	1,250	1,262	+15.8
売上高	996	268	377	307	428	458	+49.5	1,380	1,410	+41.6
売上原価	511	137	205	173	-	208	+20.2	-	723	+41.3
売上総利益	485	131	172	134	-	250	+86.6	-	687	+41.8
営業利益	61	8	-31	-30	63	61	-	10	8	-86.3
営業外収支	-5	-4	-20	-4	-	-14	-	-	-42	-
税引前純利益	56	4	-51	-34	-	47	-	-18	-34	-
当期純利益	32	3	-48	-32	67	55	-	-10	-22	-
営業利益 (統合関連費用を含まない)	61	16	10	-5	72	71	-	93	92	+50.1
受注残	296	412	400	352	255	236	-32.9	255	236	-20.3

3

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/4/26

○ 2011年度の業績概要

- ・受注高 1,262億円 前年度比 16%増
MPU、アプリケーション・プロセッサ（AP）向けで
非メモリ・テストが通年堅調

- ・売上高 1,410億円 前年度比 42%増と大きく伸びた

○ 第2四半期から連結開始したVerigy社の業績は、

- ・受注高 271億円
- ・売上高 274億円

となり、増収に大きく貢献

○ 一方、利益面では

Verigy社との統合関連費用として累計83億円を計上したことで

- ・営業利益 8億円

投資有価証券評価損などで

- ・営業外損失 42億円

- ・当期純損失 22億円

○ Verigy統合関連費用を除いた場合の営業利益は 92億円

(参考)業績概要 ※Verigy 及び 統合関連費用含まず **ADVANTEST**

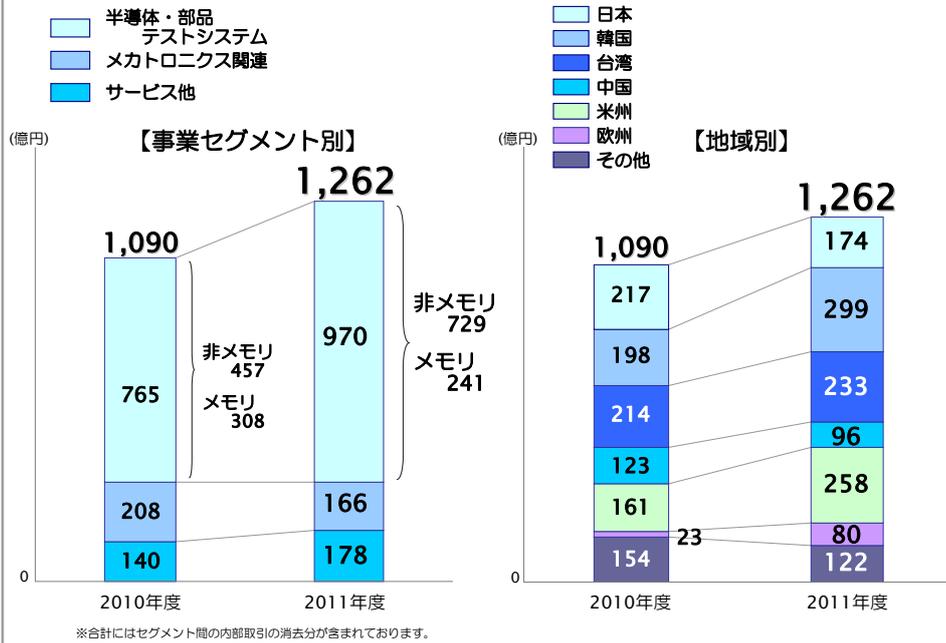
(単位: 億円)

	2010 年度	2011年度						
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
						前期比 (%)	前期比 (%)	
受注高	1,090	384	186	170	251	48.5	991	-9.0
売上高	996	268	302	220	346	57.1	1,136	14.0
売上原価	511	137	153	119	175	47.1	584	14.3
売上総利益	485	131	149	101	171	69.3	552	13.8
営業利益	61	16	15	-9	36	-	58	-5.6
受注残	296	412	297	247	152	-38.4	152	-48.8

- 参考値として、Verigyとの統合が生じなかった前提で業績を推定すると、このような結果となる

2011年度 受注実績

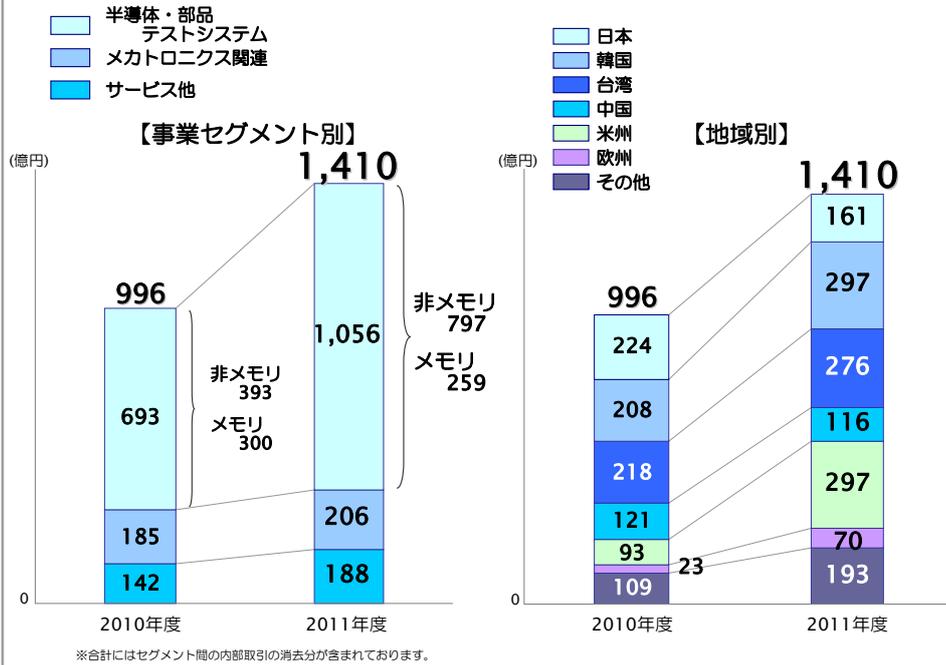
ADVANTEST



- 事業セグメント別、地域別の通期受注実績
- セグメント別
 - ・非メモリ・テストが大きく伸びた
 - ・メモリ市況の悪化により、メモリ・テストおよびメカトロニクスは減少
- 地域別
 - ・MPUとAP向けで米国、欧州、韓国が増加

2011年度 売上実績

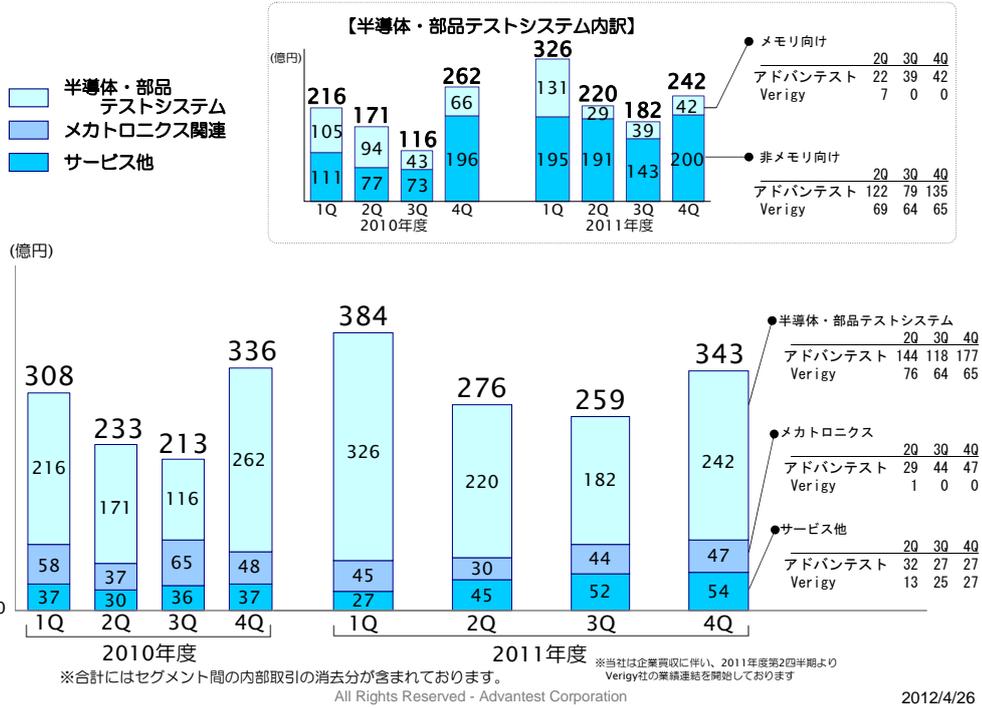
ADVANTEST.



- 事業セグメント別、地域別の通期売上実績
- セグメント別
 - ・全セグメントで増収達成
 - ・メモリ・テストは減少したが、非メモリ・テストが倍増の勢い
- 地域別
 - ・MPU向けで米州、欧州が増加

四半期別受注高 事業セグメント別

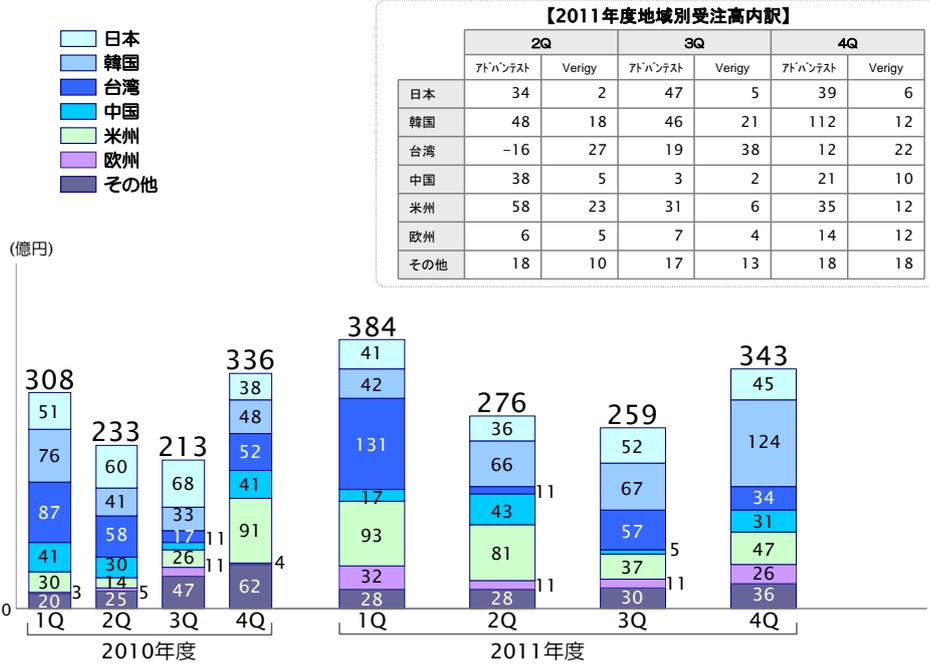
ADVANTEST



- 続いて、2011年度 第4四半期の事業セグメント別受注高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前期比33%増 242億円
 - ・うちVerigyの貢献額 65億円
 - ・非メモリ・テスト
 - 新型のスマートフォンやタブレット端末量産を背景に「T2000」の受注が好調
 - ・メモリ・テスト
 - パソコン需要の軟調から、新規設備投資の抑制が続く
- メカトロニクス関連事業
 - ・前期比9%増 47億円
- サービスその他事業
 - ・前期比4%増 54億円

四半期別受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST

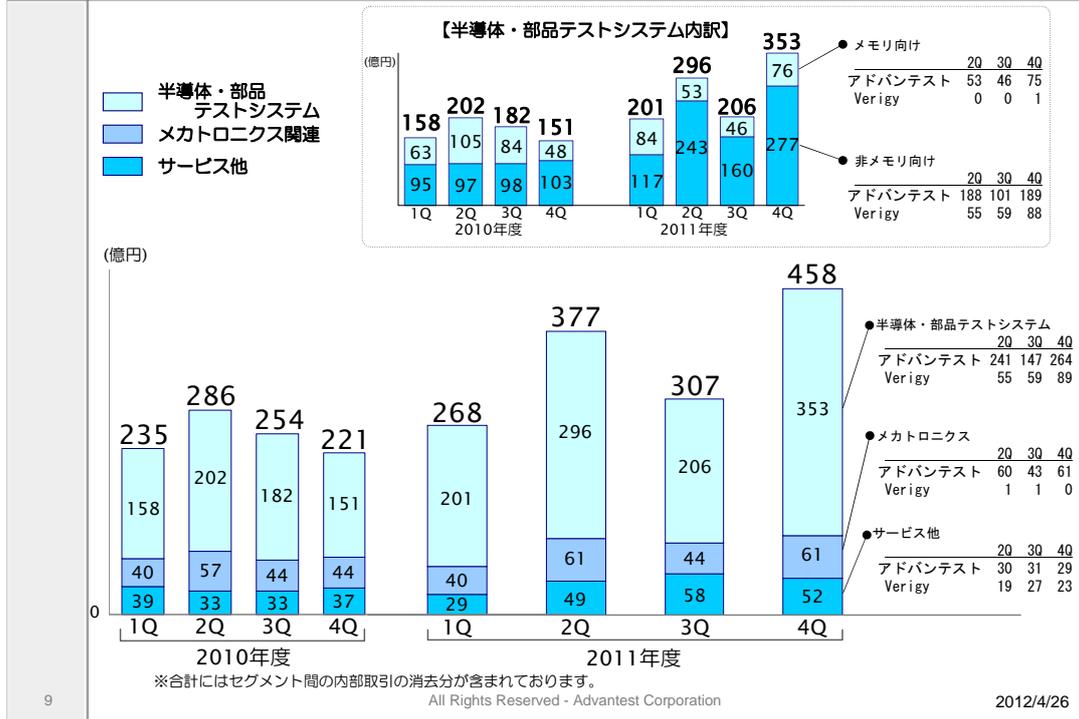


○ 2011年度第4四半期の地域別受注高

- ・ 韓国
 - ・ スマートフォンやタブレット端末に搭載される各種半導体向けに「T2000」が好調
- ・ 台湾
 - ・ AP用後工程テストの投資延伸を受け、減少

四半期別売上高 事業セグメント別

ADVANTEST



○ 2011年度第4四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比72%増 353億円
- ・うちVerigyの貢献額 89億円

・非メモリ・テスト

- ・AP向け「T2000」商談が牽引して倍増
- 「V93000」も新ソリューション” Smart Scale” がRF向けを中心に好調

・メモリ・テスト

- ・高速NANDフラッシュ向け「T5773」により伸びた

○ メカトロニクス関連事業

- ・前期比36%増 61億円

○ サービスその他事業

- ・前期比12%減 52億円

四半期別売上高 地域(出荷先)別

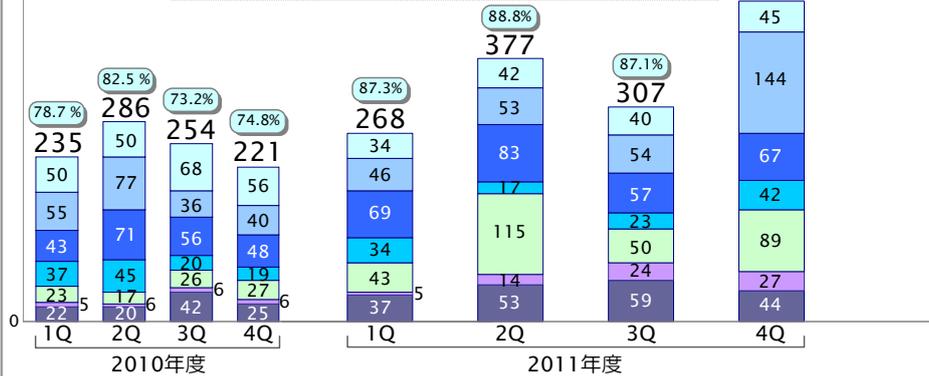
ADVANTEST

- 日本
- 韓国
- 台湾
- 中国
- 米州
- 欧州
- その他

【2011年度地域別売上高内訳】

	2Q		3Q		4Q	
	アドバンテスト	Verigy	アドバンテスト	Verigy	アドバンテスト	Verigy
日本	38	4	33	7	41	4
韓国	41	12	43	11	117	27
台湾	57	26	26	31	28	39
中国	14	3	20	3	35	7
米州	98	17	37	13	74	15
欧州	10	4	18	6	22	5
その他	44	9	43	16	29	15

(億円)

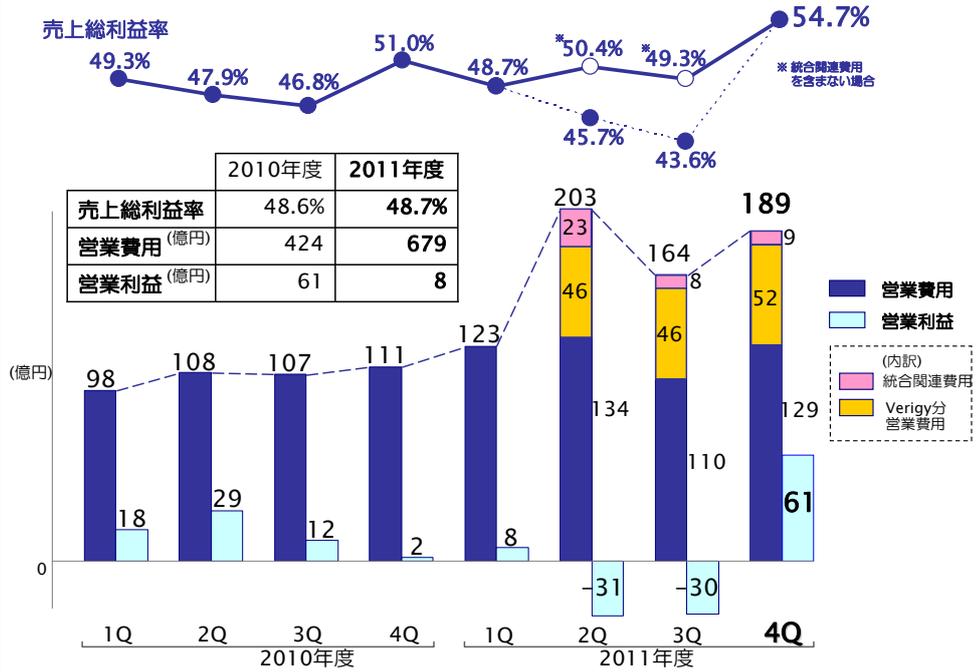


○ 2011年度第4四半期の地域別売上高

- ・韓国
 - ・前期比2.7倍 144億円と大きく伸長
 - スマートフォン、タブレット端末に搭載される各種半導体の増産による

営業利益/売上総利益率/営業費用

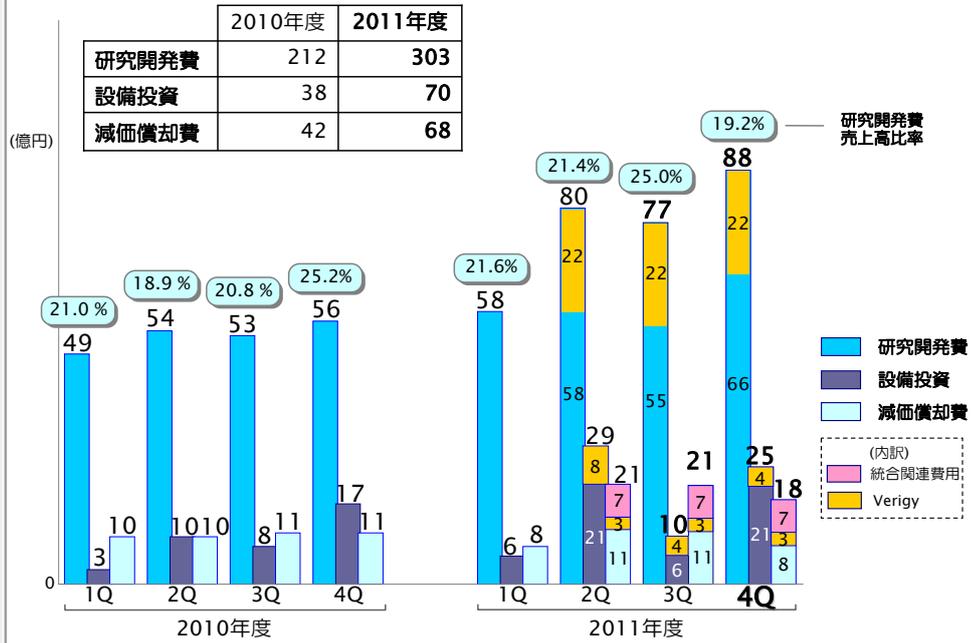
ADVANTEST



- 2011年度の営業損益について
- 2011年度第4四半期は
 - ・売上総利益率 54.7%
原価率良好な製品の売上が増加し、上昇
 - ・営業費用 189億円
 - ・うち統合関連費用 9億
 - ・Verigyの営業費用 52億
 - ・営業利益 61億円
- 2011年度通期では、統合関連費用がトータル83億円発生したため、
 - ・売上総利益率 48.7%
 - ・営業費用 679億円
 - ・営業利益 8億円

研究開発費/設備投資/減価償却費

ADVANTEST.



12

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/4/26

○ 続いて2011年度の営業費用の内訳

○ まず、2011年度第4四半期は

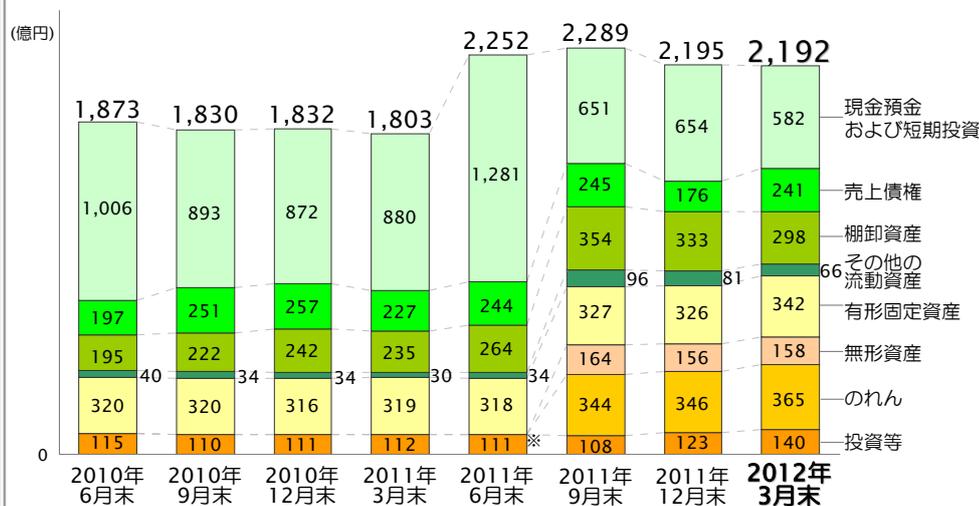
- ・研究開発費
 - ・前期比14%増 88億円
 - ・うちVerigyの研究開発費 22億円
- ・設備投資
 - ・25億円
- ・減価償却費
 - ・18億円
 - ・統合関係費用として無形資産償却費 7億円を含む

○ 2011年度通期では

- ・研究開発費 303億円
- ・設備投資 70億円
- ・減価償却費 68億円

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST

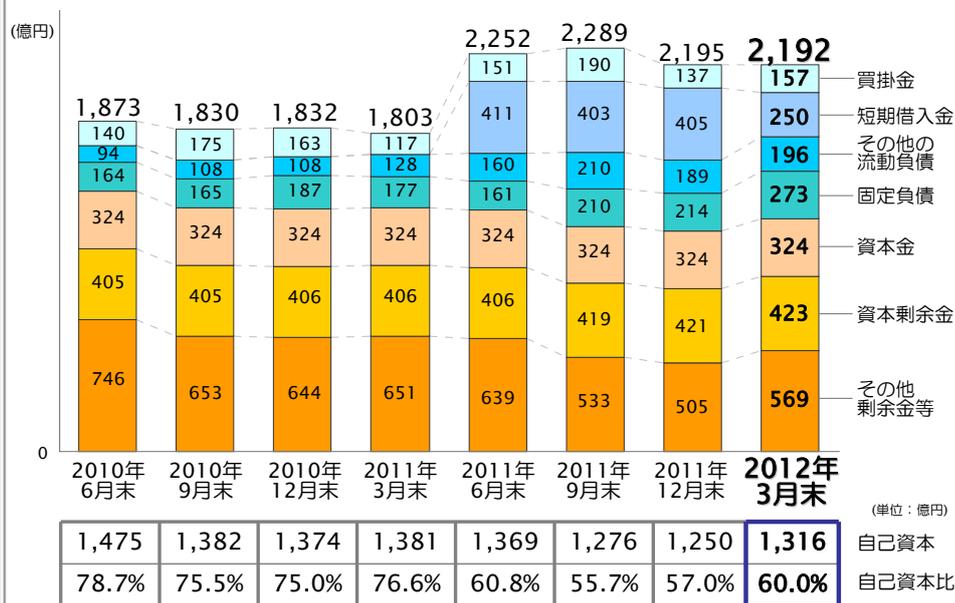


※2011年6月末時点データより以前は、有形固定資産を除いた固定資産の合計を「投資等」として表現しております

- 2012年3月末時点のバランス・シート
- 資産の部
 - ・ 現金預金および短期投資
2011年12月末比 72億円減 582億円
 - ・ 売上債権
2011年12月末比 65億円増 241億円
 - ・ のれんは、今期の減損はなく 365億円
なお米ドル資産のため、為替動向により金額変動が生じる
- これらの結果、総資産は、
2011年12月末比 3億円減 2,192億円

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST



○ 負債・資本の部

- ・ 自己資本 1,316億円
- ・ 自己資本比率は
2011年12月末から3ポイント増 60.0%
- ・ 短期借入金 一部返済し
2011年12月末から155億円減 250億円
- ・ 固定負債 59億円増 273億円

2012年度 事業見通し
“モバイル向けで更なる飛躍”

2012年4月26日
代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2012年度業績予想

ADVANTEST

(単位: 億円)	2011年度	2012年度	増加率
受注高	1,262	1,520 ~ 1,780	20.4% ~ 41.0%
売上高	1,410	1,500 ~ 1,700	6.3% ~ 20.5%
営業利益	92 <small>※統合関連費用を含まない</small>	120 ~ 200	30.8% ~ 118.0%
営業利益率	6.5%	8.0% ~ 11.8%	

※為替前提 米ドル:83円 ユーロ:110円

	2011年度	2012年度
一株当たり 配当金	15円 <small>(中間期末 5円 期末 10円)</small>	20円 <small>(中間期末 10円 期末 10円)</small>

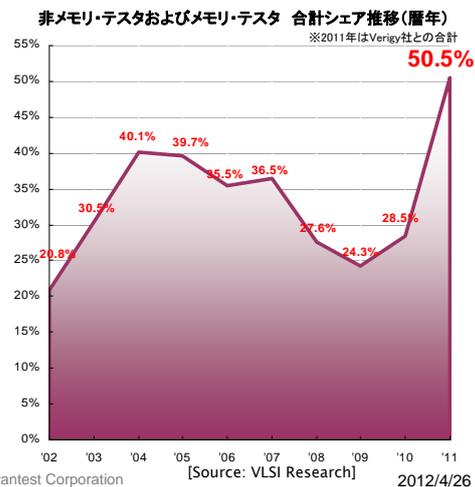
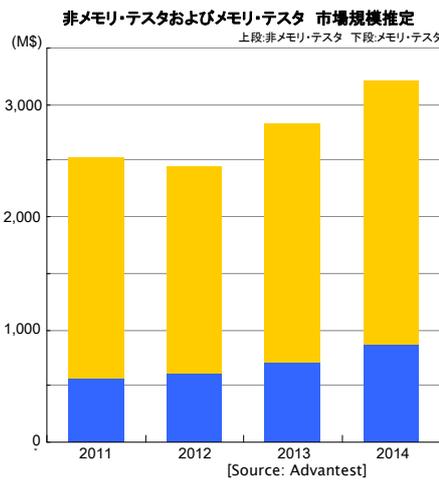
- この数年間、通期の業績予想を出していなかった。しかし、昨年度、当社はVerigyの買収もあり、テスト市場の約半分のシェアを獲得。市場の先行きをより見通せるようになったことから今回、業績予想を出すこととした
- 2012年度の業績予想は次のとおり
 - ・受注高 1,520億円~1,780億円
 - ・売上高 1,500億円~1,700億円
 - ・営業利益 120億円~ 200億円
- ・2012年度は、来年度以降の成長に向けての基盤固めとして、設備投資、開発投資を強化。主なものは、韓国での新工場建設と、新規事業や重点分野への開発リソースの投下。その結果、営業利益率は 約8%~12%の範囲
- ・一株当たり配当金は、業容拡大が続くと見込めることから、年間20円。前年度比5円増配の予定

◆半導体テスト市場動向

2012年 : 前年比減少予想も、減少割合は縮小傾向

2013年以降 : 再び成長軌道へ

牽引役は、メモリ、非メモリ問わずスマートフォンなどの携帯型端末

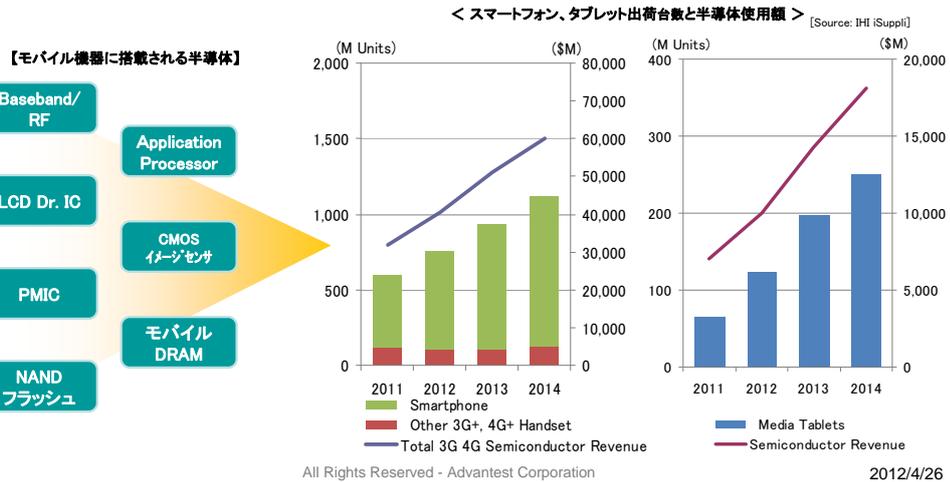


○ 2012年度業績予想の背景となる、テスト市場の動向について

- ・ 今年のテスト市場は、前年比マイナス成長となるという見方が、調査会社などの統計では多い。
当社でも、MPU向けについては減少すると見ている
- ・ しかし、スマートフォンやタブレット端末に搭載される半導体に対する足元のテスト需要を踏まえると、縮小してもその範囲は小幅なものに留まりそうな傾向にある
- ・ さらに、2013年以降も、スマートフォンなど携帯型端末の成長を軸として、テスト需要の伸びが続くと期待している

◆スマートフォン、タブレットの波に乗る

- ・モバイル機器に搭載される半導体に対し、競争力あるテスト・ソリューションを完備。さらなるシェア向上、売上増を目指す



○ テスタビジネスの動向について

- ・モバイル機器の市場成長についての参考データを、スライド下部に掲載。スマートフォンでは、2011年に約5億台だった出荷台数が、2014年に約10億台へ成長するというデータも出ている。
- ・これらモバイル機器には多様な半導体が搭載されるが、その主要な半導体に対し、当社は競争力あるソリューションを既に完備。
- ・今年度、テスタ市場規模が縮小したとしても、昨年度の勢いのままシェアを引き続き向上させることで、売上増を目指していく

◆ 経営効率向上

- ・ 組織再編
 - ・ 完全子会社としていたVerigyの統合に併せ
この4月より海外販社を再編。原則1地域1会社に集約
 - ・ 加速する半導体産業の水平分業の波に対応するため、
ファブレス/ファウンドリ/OSAT向けの販売体制を強化
※OSAT: Outsourced Semiconductor Assembly and Test
- ・ 新人事制度
“Advantest Resource Management System (ARMS)”
 - ・ グローバルに適材適所な人材配置を行う基盤として
新人事制度を導入。
現5,000名体制での生産性を最大化し、
新規事業・重点分野の成長スピードを促進

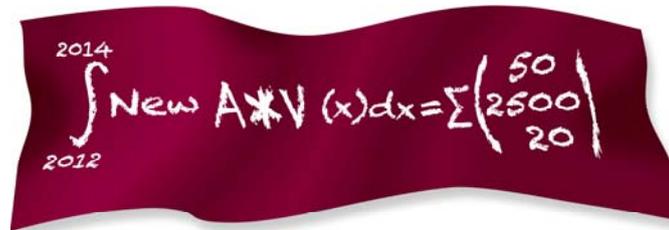
○ 経営効率の向上施策について

- ・ 4月1日をもって、100%子会社としてきたVerigy社を完全統合。
同時に、グローバルに事業活動を拡大していくための基盤整備を行った
- ・ 組織面の整備として、
 - ・ 販売力・顧客サポート力の強化と、業務効率の向上を狙いに
1地域1会社へと、海外関係会社を再編成、集約
 - ・ 近年さらに加速中の、半導体産業の水平分業の波への
対応も強化。
欧米に多いファブレス企業から、アジアに多い
ファウンドリ、OSAT企業まで、グローバルにまたがる
半導体のサプライチェーンを地域横断的にカバーする
セールス・チームを編成、販売力強化。
- ・ また、このようにグローバル化を進める上での基盤となる、
ARMS (“Advantest Resource Management System”)
と名づけた新たな人事制度を導入。
社内の活性化とともに、現在約5,000名弱のグループ人員体制の
生産性を最大限に引き出し、新規事業や重点分野の成長スピード促進
をはかる

中期経営目標について

- 最後に、中期経営目標について説明します

ACT2014 Advantest Culture Transformation

**ADVANTEST.**

2014年度での達成目標

- ・ 売上高2,500億円
- ・ 営業利益率20%以上
- ・ テスタ・ハンドラの合計シェア50%以上

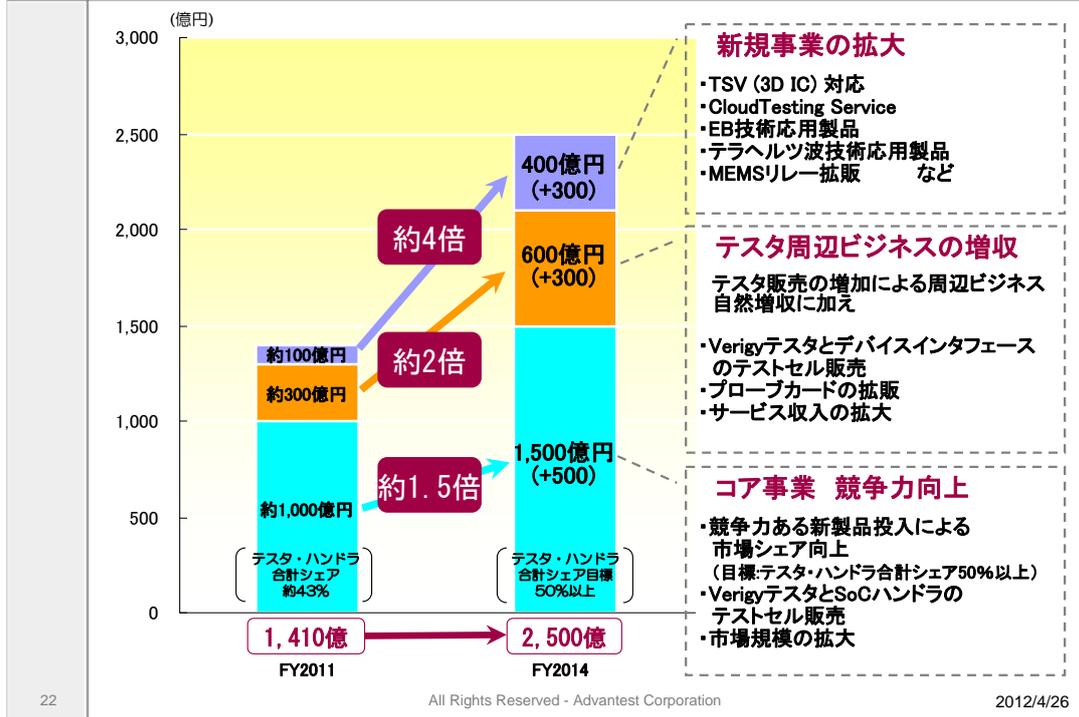
○ 新たな全社運動について

- ・ 長期的な視野に立ち、今年度からの3ヶ年度を、アドバンテストとVerigy社の企業融合によるイノベーションで、今後の持続的成長のための確固たる基盤構築とともに成長を果たす3年と位置づける
- ・ 具体的な数値目標は、
 - 「売上高2,500億円」
 - 「営業利益率20%以上」
 - 「テスタ・ハンドラの合計シェア50%以上」

の3点。2014年度での達成を目指す

ACT2014 : 3つの成長テーマ

ADVANTEST.



○ 「売上高2,500億円」を構成する要素について

- ・ 当社のコア・コンピタンスである「計測」を通じてさまざまな事業展開を行っていく。
 大きくは3つの施策を考えている
- ・ 1つ目は、コア事業のさらなる競争力向上での売上拡大。
 今後の3年も中核事業となるのは、テスタとハンドラ。
 競争力ある新製品の投入を続け、
 テスタとハンドラの合計シェア50%以上を獲得することで
 1,500億円以上の売上目標を立てている
- ・ 2つ目は、テスト周辺ビジネスの増収。
 テスタやハンドラの売上ベースを拡大させるとともに
 サービスの強化や、デバイス・インタフェースの旧Verigy製品への
 展開を加速させることで、増収をはかる。
 またプローブカードも積極拡販をはかる
- ・ 3つ目は、新規事業の展開。
 TSVに対応する新しいソリューションや、CloudTesting Serviceなど
 半導体に関わる新しい分野の製品の販売のほか、
 EB技術や、テラヘルツ波技術を応用した製品、
 外販を開始するMEMSリレーなど、
 半導体以外の事業領域に展開し経営安定化の基礎を固める

◆メカトロニクス事業、サービス関連

- ・ Verigy製テスタと、テスト・ハンドラ/デバイス・インタフェースのテストセル販売推進。
当社にしかできない、ワンストップ・ソリューションを提供
- ・ プローブ・カードを
韓国・台湾・米国・日本の世界4極で拡販
- ・ 韓国・天安に新工場を竣工予定
今後の事業拡張に向けた中核拠点とする
- ・ サービス関連では
エンジニアリングサービス、
ファイナンスサービスなど新機軸を打ち出し
売上を伸ばす



【プローブ・カード】



【ダイナミック・テスト・ハンドラ M6242】

○ テスタ周辺ビジネスの増収に向けて

- ・ これまでメモリ向けの比重が大きかったメカトロニクス事業だが、
テスタ同様、構造転換を徐々に進めていく
- ・ 後工程のVerigyテスタはこれまで全て、サードパーティ製の
ハンドラやデバイス・インタフェースと組み合わせられていた。
これを当社からトータルで提供する形態へ変えていく
- ・ プローブ・カードについても、世界4極で積極販売
- ・ 韓国に新工場を建設し、ハンドラを生産予定
- ・ サービス関連では、エンジニアサービス、ファイナンスサービスなど
新機軸を打ち出し、売上を伸ばす

◆「計測」を軸に広汎な展開

- ・クラウド・テストング・IPソリューションを開始、テスト市場を深耕
- ・TSVの測定ソリューションを準備
- ・半導体テスト以外では、先行スタートしている
MVM-SEM™
(Multi Vision Metrology Scanning Electron Microscope)
テラヘルツ関連製品
MEMSリレー
の拡販体制を整備
- ・それ以外の開発中プロジェクトも
事業化に向け、開発を加速



【テラヘルツ分光・イメージング・システム TAST500】

○ 新規事業、新分野への拡大

- ・クラウド・テストング・IPソリューションを提供開始。
R&Dなど、量産向け以外の半導体試験ニーズを掘り起こす
- ・2013年以降本格採用が進むと予想されるTSVに対し、
当社の考えるソリューションを着々と準備
- ・MVM-SEM、テラヘルツ関連製品、MEMSリレーなど
新分野へアプローチ中の新製品群について、拡販体制を固める。
それら以外の新規事業プロジェクトにも、重点的に開発リソース投入

かわる × わかる、
未来をここへ。

■開催概要

2012年6月6日（水）～7日（木） 於：東京国際フォーラム 入場無料（事前登録制）

半導体試験の領域にとどまらず
アドバンテストの考える「未来」の一端を出展

■出展予定

各種半導体テスタ、テスト・ハンドラ / テラヘルツ分光・イメージング・システム /
CloudTesting™ / New Testing and Handling for TSV / 光LSIテスタ 他



○ 最後に当社のイベントを紹介

- ・この「ACT2014」のオープニング・アクトを飾るイベントとして“ADVANTEST EXPO 2012”を6月6日、7日の両日、東京国際フォーラムにて開催
- ・幅広い実機展示・参考出展を通じ、当社の目指す企業像をご紹介します。
ご多用のことと存じ上げるが、ぜひ、ご高覧いただき当社の未来に期待していただきたい

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。